

希望の明日へ

上

*Toward a Brilliant Day
Full of Hope*

•
*Selections from
SGI President Ikeda's
Speeches*



池田名誉会長スピーチ珠玉集

仲恺农学院图书馆



A0509778

聖教ワイド文庫

希望の明日^{あす}へ
[上]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

希望の明日へ [上]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

発行日 二〇〇七年十一月十八日
第七刷 二〇一〇年四月二十日

著者 池田大作

発行者 松岡 資

発行所 聖教新聞社

〒一六〇・八〇七〇 東京都新宿区信濃町一八

電話〇三ー三三三・五三三六一一（大代表）

印刷・製本 大日本印刷株式会社

*

落丁・乱丁本はお取り替えいたします

©2007 D.Ikeda. Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります

ISBN978-4-412-01372-8

池田大作（いけだ・だいさく）

昭和3年（1928年）、東京生まれ。創価学会名誉会長。創価学会インタナショナル（SGI）会長。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館、東洋哲学研究所、戸田記念国際平和研究所などを創立。世界各国の識者と知性の対話を重ね、平和、文化、教育運動を推進。モスクワ大学、グラスゴー大学、北京大学など、世界の大学・学術機関からの名誉博士、名誉教授、世界の各都市の名誉市民の称号、国連平和賞をはじめ、「桂冠詩人」の称号など多数受賞。

著書は『人間革命』（全12巻）、『新・人間革命』（現21巻）、『私の世界交友録』など。対談集も『二十一世紀への対話』（A・トインビー）、『人間革命と人間の条件』（A・マルロー）、『二十世紀の精神の教訓』（M・ゴルバチョフ）、『地球対談 輝く女性の世紀へ』（H・ヘンダーソン）など多数。

目 次 4

目 次 4

信 頼	208	人 格	198
誠 実	206	真 剣	192
謙 虚	203	勇 気	188
寛 容	201	率 先	183
良 識	198	責 任 感	178
		気 配 り	169
		心 構 え	169
		苦 勞 ・ 苦 難	167
		陰 で 支 え る 人 に	164

賢明・聡明	212
〔第六章〕学会精神	
師 弟	218
一人立つ精神	226
使命感	234
心こそ大切	240
勝 負	248
迫 害	258
信心の指導	268
御書根本	272
地涌の菩薩	278
参考資料（中・下巻の収録予定）	282

希望の明日へ^{あす}
[上]

池田名誉会長スピーチ珠玉集

文庫版発刊にあたって

「希望の明日へ——池田名誉会長スピーチ珠玉集」は、名誉会長のスピーチをもとに集大成したものである。平成七年六月に単行本として発刊され、以来、好評を博してきた。このほど、著者の諒承を得て、一部内容を整理し、聖教ワイド文庫の中に収録することとなった。三巻に分けて、順次、発刊される。

本文庫（全三巻）は、「第一部 創価の光源」「第二部 人生の指標」「第三部 社会の英知」で構成。それぞれが数章に分かれ、信仰の基本など約一千八百項目の指針が収められている。一人でも多くの人にとって、この珠玉の言々句々が、人生、日々の行動の糧となり、希望の明日を大きく開く一助となることを願いたい。

平成十九年十一月

——編集部

目次

文庫版発刊にあたって

第一部 創価の光源

〔第一章〕創価学会・SGI

使命 10

歴史 22

創立の精神 28

民衆・庶民 36

学会活動 47

〔第二章〕人間革命

人間革命 56

境涯革命 63

宿命転換 73

〔第三章〕広宣流布

広宣流布 82

〔第四章〕組織

組織 96

団結・調和 113

役職 120

人材 125

〔第五章〕指導者

行動 138

迅速な行動 138

会員を大切に 142

言葉づかい 155

励まし 158

陰で支える人に……………164

苦勞・苦難……………167

心構え……………169

氣配り……………169

責任感……………178

率先……………183

勇氣……………188

真劍……………192

人格……………198

良識……………198

寛容……………201

謙虚……………203

誠実……………206

信賴……………208

賢明・聡明……………212

〔第六章〕学会精神

師弟……………218

一人立つ精神……………226

使命感……………234

心こそ大切……………240

勝負……………248

迫害……………258

信心の指導……………268

御書根本……………272

地涌の菩薩……………278

参考資料（中・下巻の収録予定）……………282

一、本書は、単行本『希望の明日へ——池田名誉会長スピーチ珠玉集』の中から、第一部の第六章までを[上]として収録しました。巻末に、参考資料として中・下巻の収録予定を収めました。

一、御書の引用については、『新編 日蓮大聖人御書全集』（創価学会版）により、（御書○○ページ）と表記しました。

一、法華経の引用は、『妙法蓮華経並開結』（創価学会版）により、（法華経○○ページ）と表記しました。

一、仏教用語の読み方は、『仏教哲学大辞典』（第三版）を参考にしました。

一、本文中、各項目の文末に表記した年月日については、スピーチの年月日を記しました。また、雑誌については、書名および掲載年月号を記しました。

第一部

創価の光源

第一章 創価学会・SGI

使 命

学会は、エゴとエゴがぶつかりあう人間不信の現代にあつて、ヒューマニズムの灯台^{とうだい}、生命の灯台^{じふめいのとうだい}として、人々の心に希望の明かりをともしている。その意味で、まことに深い文明論的意義^{いぎ}をもった存在^{しゆんざい}ともいえよう。ともあれ、自行化^{ぎようけた}他に^{はけ}励み、広布をめざす学会の活動に参加できることが、どれほどすばらしいことであるか。また、どれだけ御仏意^{ごぶつゐ}にかなったことであるか。その大切な意義^{いぎ}を深く胸^{むね}に刻み^{きざ}、いちだんと意気軒昂^{いきけんこう}

に広布の実践^{じつせん}に励んでいきたい。

*

— 昭 62・10・11

学会は、大聖人の仏法^{しんぽう}を信奉^{しんぽう}し、各人の成仏^{じやうぶつ}と仏国土^{ぶつこくど}の建設、つまり広宣流布の実現のために誕生^{たんじやう}した団体である。それは牧口先生と戸田先生によつて創設^{そうせつ}されたが、広宣流布のため、仏意^{ぶつゐ}仏勅^{ぶつちやく}の実現のため、時^えを得て出現^{しゆつげん}したのである。決して簡単^{かんたん}に考えるべきものではない。

戸田先生は、昭和三十年、関西の第一回堺支部^{さかい}総会の席上、「百年の大計^{たいけい}、いなか千年の平和の大計をたて、もつて日蓮大聖人様の御恩^{ごおん}に報ずるとともに、民衆

万年の幸福を確立^{かくりつ}することが、創価学会の使命である」と述べられている。私どもはこの指導のごとく学会創立の意義^{いぎ}に思いを深くし、どこまでも地涌^{じゆ}の勇者^{ゆうしや}として自らの使命に邁進^{まいしん}したい。

— 昭62・11・18

*

学会員のなかには、あまりに自分たちの身近^{みぢか}なところにあるためか、仏法の卓越^{えつ}さや学会のすばらしさがわからなかったり、見失^{みうしな}ってしまう人がいるかもしれない。しかし、他の世界にあつて、行き詰^づまった自分たちの社会や運動に、何^{なん}らかの活路^{かつろ}を見いだしたいと悩み、願^{ねが}つて

いる人たちにとつては、仏法や学会のすばらしさが、よく理解できるに違^{ちが}いない。私どもには世界第一の仏法がある。その仏法を奉^{ほう}じて世界の平和と人類の幸福のために行動している学会は、世界最高の思想団体であり、実践^{じっせん}の教団^{きやうだん}なのである。そのことを深く確信し、また誇^{はこ}り^ことして、広宣流布という尊^{とう}い目的^{とく}と使命^はを果たしゆくために、悠々^{ゆうゆう}と進んでほしい。

— 昭63・11・24

*

「不幸な人を救^{すく}つていこう」——これこそ、私どもの使命であり、信心の目的である。名誉や地位を得^えることでもな

い。財宝や權威で身を飾ることもない。苦悩の人々を救い、世界から「不幸」と「悲惨」の二字をなくす広布の法戦を貫き通すことが、学会の永遠の精神である。

— 昭63・11・30

*

戸田先生はかつて、楽土日本を現出させよう。地上から悲惨の二字をなくしたい。と言われた。それは、当時の青年に託された悲願でもあった。そして、広布の進展に符節を合わせるかのように、日本の繁栄が進んだことも事実である。仏法の因果論でこの事実をとらえるとき、妙法の偉大さと学会の活動のすば

らしさを痛感せざるをえない。そして、何よりも皆さま方の今日のお姿こそ、その証明である。将来の日本も、また世界も、その原理はまったく同じであることを深く確信していただきたい。

— 昭63・12・17

*

S G I（創価学会インタナショナル）は、世界の心ある人々が希求してやまない「精神の力」「精神の滋養」「精神の糧」を人類に送りゆく、世界の希望の存在なのである。どうか一人一人が、この尊い大事業の担い手として、かぎりない誇りを胸に、勇んで社会貢献の道を進んでま